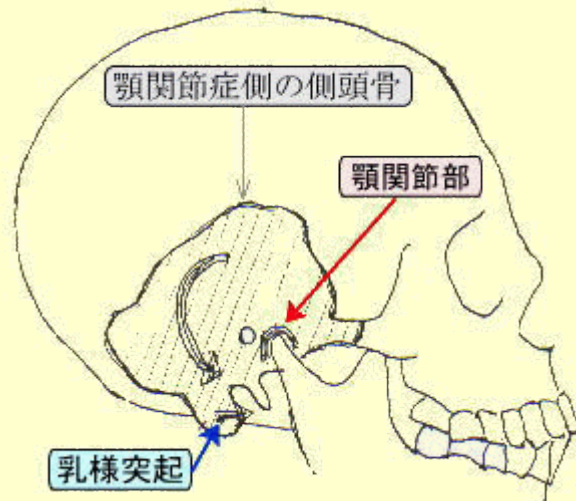


第十五回 顎関節症による歩行困難（杖を持って）歩く

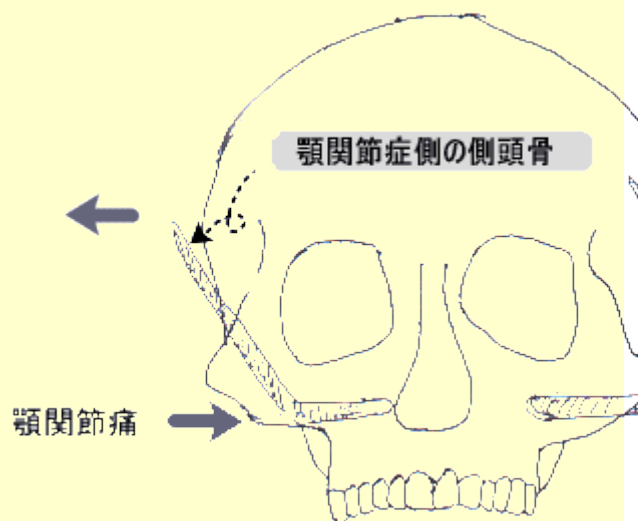
顎関節症側の側頭骨は
この様に回転する為、乳様突起は前方へ

反対側は全く反対の逆回転となる為、
乳様突起は後ろへ



顎関節症側の側頭骨は上部は外へ
下部は内側へ
反対側の側頭骨は上部は中へ圧迫
下部は外へ

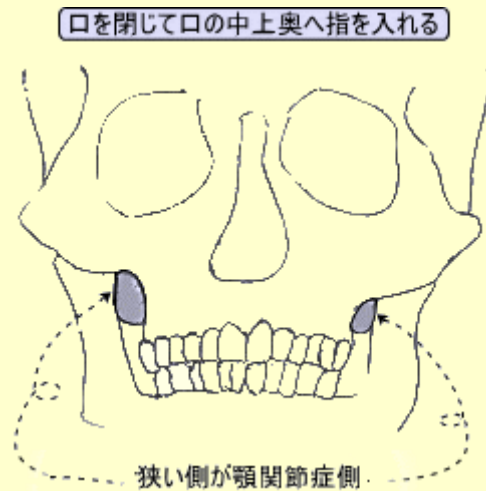
左右の側頭骨は必ず前後逆方向に捻れ
さらに悪くなると頭蓋骨全体が
捻れ口がゆがむ
→顎関節症の反対側へ



下顎を左右に動かすとその隙間は？
そのとき左右の足の長さは？

顎関節症は顎だけの問題でなく頭の先から足の先までと歯のかみ合わせの左右のバランス

バランスが崩れると、真っ直ぐ立っているとき「おしり」が片方にズレ、体の胴体部(肩と腰)は逆方向に捻れ精神的にも、肉体的にも異常を生じる



顎関節症をおこすと必ず骨盤のズレをおこしそして足のヒザに異常をおこし脚力が弱くなるだけでなく頭蓋骨の左右の側頭骨（顎関節）図参照が逆方向に捻れをおこしますと左右のバランスがとれなくなります。前頭骨（おでこ）の左右が前後にズレますと前方へ倒れかかったりします。その為に杖でバランスをとる事になります。若い人なら足首のネンザ等を起こすことになります。このような人は必ず頭蓋骨のズレをおこした状態のまま左右の歯を咬み合わせを作ってしまったたり又は入れ歯か又は歯が抜けた状態になっています。歯はただ咬めれば良いという事ではありません。咬む事も大切ですが体のバランスをとることにより健康を維持することが大切です。頭蓋骨及び体がズレた状態で上下の歯をしっかり咬めたところでは健康を維持することは不可能です。